

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 5 月 12 日現在

機関番号：13101

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2020

課題番号：18K12555

研究課題名(和文) 弥生時代併行期における石器生産・消費システムと鉄器化の日韓比較研究

研究課題名(英文) The comparative study about the consumption system of stone tools and the change from stone to iron tools between Korea and Japan in the Yayoi period

研究代表者

森 貴教 (MORI, Takanori)

新潟大学・研究推進機構・助教

研究者番号：30775309

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：日本列島弥生時代および朝鮮半島南部の青銅器時代・初期鉄器時代における石器生産・消費システムと鉄器化に関して日韓比較を行い、東北アジア先史時代の観点から初期農耕文化・鉄器文化の受容・展開と社会変化過程を考察することを目的とする。

日韓に分布する石器の石材原産地研究を進めたほか、復元石器を用いたイネの収穫実験、加工具である砥石を対象とした道具の鉄器化に関する分析を行い、弥生時代併行期における石器生産・消費システムと鉄器化を考察するための情報が得られた。さらに、新潟県長岡市島崎川流域に所在する上桐の神社裏遺跡の学術発掘調査を実施し、石器-鉄器移行期の弥生文化の特徴を掴むための遺跡情報を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では弥生時代とその併行期における石器生産・消費システムと鉄器化について日韓比較を行い、初期農耕文化・鉄器文化の受容と展開について考察した。

日韓で広域に分布する石器石材の岩石学的・地球科学的分析を進め、これまで不明であった石材原産地推定について一定の見通しが得られた。復元石器を用いたイネの収穫実験では、日韓に分布する石庖丁について、刃の付け方と収穫機能に関する内容を明らかにした。砥石を対象として利器の鉄器化に関する分析を行い、鉄器化が生じた時期や内容を明らかにした。さらに、新潟県内の弥生時代集落遺跡の学術発掘調査を実施し、石器-鉄器移行期の弥生文化の特徴を掴むための遺跡情報が得られた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to compare the production and consumption systems of stone tools and their ironization during the Yayoi period in Japan and the Bronze and Early Iron Ages in the southern part of the Korean peninsula, and to examine the development of early agricultural culture and the process of social change from the perspective of Northeast Asian prehistory.

In this study, I conducted research on the stone sources of stone tools distributed in Japan and Korea. In addition, I conducted rice harvesting experiments using reconstructed stone tools, and analyzed the ironization of tools based on whetstone to examine the stone tool production and consumption system and ironization in the Yayoi period. In addition, Excavations at Kamigiri-no-Jinjyaura site in Nagaoka City, Niigata Prefecture, provided information on the site during the stone to iron tools transition period.

研究分野：考古学

キーワード：弥生時代 青銅器時代 初期鉄器時代 鉄器化 生産・消費システム

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本研究の課題は「弥生時代併行期における石器生産・消費システムと鉄器化の日韓比較研究」である。題目に掲げた弥生時代は朝鮮半島南部から北部九州地域へ水田稲作農耕が伝播し、その後列島の各地に拡がり定着化した時代である。弥生時代に併行する時期である朝鮮半島南部の青銅器時代から初期鉄器時代は、朝鮮半島無文土器文化が展開した時代を指す。水田稲作農耕に加え墓制、住居、石器、土器、木器、玉など、朝鮮半島無文土器文化と共通する文化要素が、弥生時代のはじまりの北部九州に数多く出現する。

弥生時代の実像を考える上では日本列島のみならず、朝鮮半島南部との比較検討が必要である。それは、初期農耕社会を構成する文化要素の伝播元であるというだけでなく、それを生み出す道具生産の体系（生産・消費システム）の移転を考察することに繋がるためである。

また弥生時代の後半期（紀元前1世紀～後3世紀）には石器から鉄器へと道具の材質が変化するが、その原材料である鉄素材は朝鮮半島南部から入手される。また鍛冶に関する技術移転を前提とする。東北アジアにおける鉄器文化の展開、日本列島への導入過程を考えるうえで朝鮮半島南部の鉄器化を実証的に明らかにすることが課題となっている。

### 2. 研究の目的

本研究は、日本列島弥生時代および朝鮮半島南部の青銅器時代・初期鉄器時代における石器生産・消費システムと鉄器化に関して日韓比較を行い、東北アジア先史時代の観点から初期農耕文化・鉄器文化の受容・展開と社会変化過程を考察することを目的とする。研究対象地域は、朝鮮半島南部から日本列島各地域（主に日本海沿岸地域）である。

### 3. 研究の方法

上記2の目的に対し、以下の3点の手法・視点で研究を行った。A. 石器の生産構造と遺跡間連鎖関係・交流ネットワークの復元的研究、B. 石器から鉄器への材質変化（鉄器化）と物流および社会変化の研究、C. 朝鮮半島南部の青銅器時代・初期鉄器時代との地域間比較の検討、である。

### 4. 研究成果

#### (1) 弥生時代併行期における石器生産・消費システムと石器石材に関する基礎的検討（実施項目A）

弥生時代併行期において、日韓で広域に分布する石器石材である層灰岩の岩石学的・地球化学的研究を進めた。層灰岩は磨製石剣・片刃石斧の石材として多く用いられているが、その石材原産地・採取地はこれまで不明であり、弥生時代の石器生産・消費システムの解明において大きな課題となっていた。

そこで、まず石材原産地の列島側の有力候補地である北九州市域・脇野亜層群中の層灰岩の主成分・微量元素元素、希土類元素の測定を行った。その結果、北九州市紫川流域と黒川流域の層灰岩の全岩化学組成は類似するが、八木山川流域の層灰岩はこれらよりも低いTiO<sub>2</sub>、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>含有量と、若干低いCr、Ga、Nb、Th、Zr含有量を示すことが明らかになった。こうした含有量の差は層準の違いを反映していると考えられ、これらの元素を用いることで、石器石材の原産地の違いを検証できるものと予測された（文献①）。

次に朝鮮半島南部の候補地である洛東層群（韓国慶尚北道高靈郡義鳳山）の層灰岩に対し主成分・微量元素元素の測定を行った。そして考古資料である福岡県行橋市下稗田遺跡出土層灰岩製石器の化学組成が日韓のいずれの地域のものに類似するかについて、成分元素の含有量比の比較によって示した。その結果、化学組成は韓国・義鳳山の組成範囲内にプロットされることから、この石器の石材原産地は韓国であると推定した。日韓に分布する堆積岩系の考古資料を対象とした石材原産地推定研究として初の試みであり、画期的な内容といえる。現在、論文化を進めている。

#### (2) 石製農具の実験使用痕分析・収穫実験の実施（実施項目A）

弥生時代併行期における石器のライフ・ヒストリーの一端を明らかにするために、復元石庖丁を用いてイネの収穫実験を行い、使用痕分析を行った（静岡県登呂遺跡復元水田、埼玉県入間市西久保湿地実験水田）。このことにより、日韓に分布する特徴的な形態を呈する石庖丁（左右交互刃石庖丁）の使い方・機能に関して多くのデータを得た。日韓で異なる刃の付け方をする左右交互刃石庖丁について、収穫実験をとおして各タイプの機能的な差異を検証した。結果として、刃先が下面になる九州タイプに比べ、上面になる半島タイプの収穫量が多く、操作性としても優れていることが明らかになった。時期的に後出する九州タイプは、収穫効率という直接的な機能よりもデザインに関する在来の文化的伝統が重視された結果、文化要素の受容と同時に属性の改変が行われたものと考えられる（文献②）。

(3) 弥生時代列島各地域における石器から鉄器への材質変化（鉄器化）に関する研究（実施項目 B）

列島各地（新潟・北陸地方、近畿地方、中九州）の弥生時代集落遺跡出土の砥石を対象として、砥石目（砥石粒度）の組成や消費形態の変遷に基づき、鉄器化とその意義を地域間比較する研究を進めた。分析の結果、近畿地方では弥生時代中期後葉（紀元前 1 世紀）に一定の鉄器化の進行が窺える一方、後期（後 1～2 世紀）には一遺跡において多様な砥石目の砥石が組成されることが明らかになった。弥生時代中期から後期にかけての社会変化についてその変化の要因は鉄器化ではなく、当時の社会システムに求められることを指摘した（文献③）。

また、砥石の表面解析の方法について、機械要素・トライボロジーを専門とする研究者と共同研究を行った。新潟県上越市裏山遺跡出土砥石（弥生時代後期後葉）を対象として、表面粗さ測定機を用いて砥石の表面性状を高精度で明らかにする方法を新たに提示した（文献④）。

(4) 新潟県内遺跡の発掘調査を通じた日本海沿岸地域の地域間交流に関する検討（実施項目 B）

日本海沿岸地域における弥生時代後半期の社会変化を考えるうえで、いわゆる「高地性集落」の動態や出土土器などから把握される地域間の交流関係、玉作の様相、鉄器の入手は重要な検討課題となっている。新潟県長岡市の島崎川流域はこうした様々な課題について、居住・生産域と墓域の両面から総合的に検討するための絶好のフィールドといえる。そこで、2019 年度から 2 ヶ年にわたり新潟県長岡市島崎川流域に所在する「上桐の神社裏遺跡」の学術発掘調査を実施した。調査により、弥生時代中期後半を中心とした土器・石器・石製品が多量に出土し、多くの遺跡情報を得た。第 1 次・第 2 次発掘調査の内容と分析・考察をまとめた発掘調査報告書を刊行した（文献⑤）。

(5) 日韓の地域間比較の検討（実施項目 C）

本研究は、「層灰岩」製石器の原産地推定のための岩石学的・地球化学的研究を除くと、朝鮮半島南部の青銅器時代・初期鉄器時代における石器生産・消費システムと鉄器化についての比較および考察が不十分となってしまった。これは本研究の最終年度にあたる 2020 年度以降、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的流行により韓国への渡航が制限され、現地での資料調査や文献収集に大きな支障が生じたためである。このことにより当初計画していた、日本列島と同一の分析基準で韓国側の資料を分析することはかなり困難となってしまった。

しかしながら、2019 年 5 月に「原の辻遺跡における石器生産と日韓の石器石材」をテーマとして第 3 回弥生石器研究ワークショップ（壱岐大会）を開催し、韓国から研究者を招聘して活発な意見交換をするなど、日韓の地域間比較を行うための情報収集を精力的に進めることができた。さらに、本研究に関連する韓国語の論文を 2 編翻訳し、それぞれ大学紀要に投稿した（孫 峻鎬（訳・森 貴教）、韓半島 半月形交互片刃石庖丁の製作・使用・意味—任實郡青雄面出土品に対する分析—、環日本海研究年報、No. 24、2019；金 想民（訳・森 貴教）、東北アジアにおける鉄鎌の変遷と完州・葛洞遺跡鑄造鉄鎌の登場背景、環日本海研究年報、No. 26、2021）。

以上の内容により、本研究では課題を多く残すものの、一定程度当初の目的を達成したと考える。

#### <引用文献>

- ① 柚原雅樹、梅崎恵司、森 貴教、川野良信、北部九州，下部白亜系脇野亜層群のいわゆる層灰岩の全岩化学組成、地球科学、Vol. 74、No. 4、2020、157-170
- ② 森 貴教、刃の付け方は機能に影響するか—左右交互刃石庖丁による収穫実験から—、持続する志（岩永省三先生退職記念論文集）上、中国書店、2021、249-259
- ③ 森 貴教、近畿弥生社会における鉄器化とその意義—砥石分析による再検討—、古代文化、Vol. 71、No. 4、2020、21-36
- ④ 森 貴教、月山陽介、新田 勇、砥石表面解析の方法と評価—考古資料を対象として—、環日本海研究年報、No. 26、2021、1-12
- ⑤ 森 貴教（編）、長岡市島崎川流域遺跡群の研究 I 上桐の神社裏遺跡（島崎川流域遺跡調査団報告第 1 集）、島崎川流域遺跡調査団、2021

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 森 貴教, 月山陽介, 新田 勇	4. 巻 26
2. 論文標題 砥石表面解析の方法と評価 考古資料を対象として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 環日本海研究年報	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 森 貴教	4. 巻 10
2. 論文標題 東北地方北部の柱状片刃石斧をめぐって 系譜と時期の検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 初	6. 最初と最後の頁 175-182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 森 貴教	4. 巻 上
2. 論文標題 刃の付け方は機能に影響するか 左右交互刃石庖丁による収穫実験から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 持続する志 (岩永省三先生退職記念論文集)	6. 最初と最後の頁 249-259
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 柚原雅樹, 梅崎恵司, 森 貴教, 川野良信	4. 巻 74(4)
2. 論文標題 北部九州, 下部白亜系脇野垂層群のいわゆる層灰岩の全岩化学組成	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地球科学	6. 最初と最後の頁 157-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15080/agcjchikyukagaku.74.4_157	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森 貴教	4. 巻 17
2. 論文標題 玉津田中遺跡出土砥石の検討 近畿地方における鉄器導入の一例	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ひょうご考古	6. 最初と最後の頁 16-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森 貴教, 原田 幹	4. 巻 25
2. 論文標題 弥生時代における石製農具の使用痕分析 古賀市馬渡・束ヶ浦遺跡出土石器を対象として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 環日本海研究年報	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森 貴教	4. 巻 31
2. 論文標題 越後における弥生時代の鉄器化 砥石の分析から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新潟考古	6. 最初と最後の頁 75-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森 貴教	4. 巻 71(4)
2. 論文標題 近畿弥生社会における鉄器化とその意義 砥石分析による再検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 古代文化	6. 最初と最後の頁 21-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 真鍋成史, 森 貴教, 線納民之, 青柳泰介	4. 巻 43
2. 論文標題 脇田遺跡の金属器生産関連遺物について - 『脇田遺跡の研究』補遺編その1 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 奈良県立橿原考古学研究所紀要 考古学論攷	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森 貴教	4. 巻 8
2. 論文標題 上越市下馬場遺跡出土の鉄針と砥石	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 先史学・考古学論究	6. 最初と最後の頁 55-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森 貴教	4. 巻 729
2. 論文標題 磨製石斧からみた弥生のはじまり	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊考古学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 10-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森 貴教	4. 巻 86
2. 論文標題 塚原遺跡出土の扁平片刃石斧について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史玉名	6. 最初と最後の頁 27-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森 貴教	4. 巻 721
2. 論文標題 九州地方の弥生時代石器研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊考古学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 21-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森 貴教	4. 巻 7
2. 論文標題 弥生時代開始期における文化要素の受容と選択 原遺跡出土土斧片の意義	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 先史学・考古学論究	6. 最初と最後の頁 59-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森 貴教	4. 巻 24
2. 論文標題 長岡市姥ヶ入南遺跡出土鉄斧の再検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 環日本海研究年報	6. 最初と最後の頁 68-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森 貴教	4. 巻 2
2. 論文標題 幅・津留遺跡出土砥石の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 幅・津留遺跡(熊本県文化財調査報告第336集)	6. 最初と最後の頁 289-294
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 森 貴教・柚原雅樹・梅崎恵司・川野良信
2. 発表標題 弥生時代における「層灰岩」製石器の石材原産地推定
3. 学会等名 一般社団法人日本考古学協会第87回総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森 貴教
2. 発表標題 新潟の弥生鉄器 姥ヶ入南遺跡出土鉄斧を中心に
3. 学会等名 2021年弥生時代研究会第1回online学習会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森 貴教・柚原雅樹・梅崎恵司
2. 発表標題 弥生時代の層灰岩製石器に対する地球化学分析
3. 学会等名 一般社団法人日本考古学協会第86回総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 柚原雅樹・梅崎恵司・森 貴教
2. 発表標題 北部九州下部白亜系関門層群脇野垂層群の層灰岩の全岩化学組成
3. 学会等名 日本地質学会西日本支部令和元年度総会・第171回例会
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 森 貴教
2. 発表標題 長岡市島崎川流域における弥生時代遺跡群の研究 上桐の神社裏遺跡第1次調査の成果を中心に
3. 学会等名 新潟史学会第69回研究大会・総会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森 貴教
2. 発表標題 砥石からみた弥生時代の鉄器普及
3. 学会等名 第9回北陸貝塚研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柚原雅樹・梅崎恵司・森 貴教
2. 発表標題 北部九州下部白亜系脇野垂層群の「層灰岩」の化学組成
3. 学会等名 第73回地学団体研究会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 原田 幹・森 貴教
2. 発表標題 左右交互刃石庖丁の使用痕分析 弥生時代北部九州を対象として
3. 学会等名 一般社団法人日本考古学協会第85回（2019年度）総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森 貴教
2. 発表標題 砥石からみた弥生時代高地性集落の特質 近畿地方を対象として
3. 学会等名 古代学研究会 5月例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森 貴教
2. 発表標題 原の辻遺跡における石器生産について 片刃石斧を中心に
3. 学会等名 第3回弥生石器研究ワークショップ(壱岐大会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森 貴教
2. 発表標題 鉄器化と弥生後期社会の二相 - 砥石分析から -
3. 学会等名 西相模考古学研究会・兵庫考古学談話会合同シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森 貴教・原田 幹
2. 発表標題 左右交互刃石庖丁による収穫実験と使用痕分析 刃の付け方は機能に影響するか
3. 学会等名 考古学研究会第65回総会・研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森 貴教・原田 幹
2. 発表標題 弥生時代における石器埋納の一形態 古賀市馬渡・束ヶ浦遺跡出土石器の使用痕分析から
3. 学会等名 考古学研究会第64回総会・研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森 貴教
2. 発表標題 今山遺跡における石斧生産と石斧流通研究の諸問題
3. 学会等名 第2回弥生石器研究ワークショップ(福岡大会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森 貴教
2. 発表標題 磨製石器からみた弥生時代のはじまり
3. 学会等名 一般社団法人日本考古学協会第84回(2018年度)総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森 貴教
2. 発表標題 新潟県域における弥生時代の鉄器化 砥石の分析から
3. 学会等名 新潟考古学談話会7月例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森 貴教
2. 発表標題 鉄器加工痕のある砥石 新潟市古津八幡山遺跡出土資料の検討
3. 学会等名 第8回弥生時代研究ネットワーク交流会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森 貴教・梅崎恵司・柚原雅樹・黄昌漢
2. 発表標題 弥生時代併行期における日韓の石器石材に関する基礎的研究 層灰岩を対象として
3. 学会等名 第13回九州考古学会・嶺南考古学会合同考古学大会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森 貴教
2. 発表標題 弥生時代近畿地方における鉄器化 砥石分析による再検討
3. 学会等名 近江貝塚研究会第299回例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森 貴教
2. 発表標題 鉄器の受容と系譜
3. 学会等名 平成30年度第2回新潟県考古学会研究発表会「新潟県域における弥生時代の技術・物資・情報の伝播と流通」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森 貴教
2. 発表標題 砥石からみた弥生時代の鉄器化と社会変化 北部九州と近畿の比較
3. 学会等名 平成30年度九州史学会考古学部会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森 貴教
2. 発表標題 長岡市島崎川流域における弥生時代鉄器の基礎的研究
3. 学会等名 新潟考古学談話会12月例会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 森 貴教	4. 発行年 2021年
2. 出版社 島崎川流域遺跡調査団	5. 総ページ数 48
3. 書名 長岡市島崎川流域遺跡群の研究 上桐の神社裏遺跡（島崎川流域遺跡調査団報告第1集）	

1. 著者名 森 貴教	4. 発行年 2020年
2. 出版社 六一書房	5. 総ページ数 109-118
3. 書名 弥生時代の東西交流～広域的な連動性を考える～（考古学リーダー27）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

新潟大学 研究者総覧  
[http://researchers.adm.niigata-u.ac.jp/html/200001285\\_ja.html](http://researchers.adm.niigata-u.ac.jp/html/200001285_ja.html)  
 新潟大学研究推進機構テニュアトラック事業  
<https://www.irp.niigata-u.ac.jp/business/tenure-track/tt-researcher/mori-takanori/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 第3回弥生石器研究ワークショップ(吉岐大会)	開催年 2019年~2019年
----------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------